

取 組 み 事 例 (案)

政策 1 産業振興(1)

ものづくり・IT産業の振興

【「金型」の研究開発】

「しまね金型研究会」は、「金型（製品をつくるための金属の型）」をキーワードに県内の関連企業が集まり、金型に関する各種要素技術の研究や会員相互の技術連携等を行うグループです。新規市場獲得に向けた新技術の確立や技術的課題の克服を目指しています。

【共同受注のネットワークづくり】

「コア21東出雲共同受注ネットワーク」は、多品種少量生産が得意な企業、短納期を実現できる企業など得意な技術分野を活かしながら、連携して新しい受注先を開拓しているグループです。このネットワークでは、先進的な技術の習得などの人材養成事業も展開しています。

【Rubyの普及・発展】

島根発のプログラミング言語 Ruby の普及と発展を目的とする合同会社「Ruby アソシエーション」が設立され、Ruby の資格認定試験や、ビジネス利用に向けた関連プロジェクトを実施しています。

政策 2 産業振興(2)

自然が育む資源を活かした産業の振興

【集落営農組織による経営の安定的・多角的展開】

津和野町の農事組合法人「おくがの村」は、全国に先駆けて設立された集落営農型の法人で、農作業の受委託により、高齢者も生涯現役で農業に携わっています。

斐川町の農事組合法人「あかつきファーム今在家」では、米、麦、大豆のほか、特産のタマネギ、キャベツやチューリップの球根生産など、大規模農場を生かした安定的で効率的な生産が行われており、いちご、ぶどうの観光農園など、経営の多角化も進められています。

【隠岐の製品のブランド化】

海士町では、企業からの農業参入により、全国に類を見ない放牧スタイルなど、地域の特色を活かした肉用牛産地づくりが進められています。また、西ノ島町では、生きたまま直送する「活イカ」の取り組みが進められているほか、隠岐地域全体で、ズワイガニ、イワガキ、白バイなどを「隠岐ブランド」として高付加価値化する取り組みが進められています。

政策 3 産業振興(3)

観光の振興

【着地型の観光振興】

隠岐地域では、民間有志による有限責任事業組合を核に、島根県と隠岐観光協会が加わって、旅行プランの企画のほか、特産品の通信販売など新しい集客ビジネス構築に取り組んでいます。

政策 4 産業振興(4)

中小企業の振興

【商店街の取組み】

松江市中心部の商店街協同組合では、「全国に先駆けて、高齢者の方が住み良い地区にしよう」との発想から、平成 17 年 6 月に、アーケードの屋根下部への電線収納や車道と歩道の段差を解消し、歩行者の安全性を確保するとともに白潟天満宮に「おかげ天神」を建立するなど、高齢者向けの様々な事業を展開しています。

【地域資源活用の取組み】

浜田市にある水産食品加工会社では、全国の水揚げ高で上位にランクされる浜田漁港の真アナゴを用いて、高付加価値の加工商品を開発し、全国に向けたブランド化に取り組んでいます。

安来市では、生産組合や多様な食料品製造業者が参画して、減反水田で栽培された大豆を活用し、“どじょうすくいのみち安来”のイメージを取り入れたヨーグルト、プリン、アイスクリームなどの商品開発に取り組んでいます。

政策 5 雇用・定住の促進

【地域で活躍する技術人材の輩出】

松江工業高等専門学校では、進路決定前の学生に対して、地域産業への関心を高めてもらい、将来地域で活躍する優秀なエンジニアとなるよう、県内の産業界等から講師を招き、地域産業の現状や今後の展開、実践的知識や幅広い見識にもとづいた新規性のある情報を提供する講義を開講しています。

【企業の連携による職業訓練の取組み】

職業訓練法人「安来地域能力開発振興協会」では、中核的な産業である機械金属関連産業を中心に、一企業では困難な従業員の技能・技術力向上のため、地域の企業が連携して職業訓練を積極的に実施するなど、地域ぐるみで人材育成に取り組んでいます。

政策 6 産業基盤の維持・整備

【高速道路の早期整備に向けた取組み】

「ゆうひライン女性の会」は、浜田益田間の山陰自動車道早期整備を願い、また、生活者の視点から、これからの高速道路づくりや、高速道路を活用したまちづくり・地域づくりについて考えるため、益田市・浜田市在住の女性で結成された団体です。勉強会の開催や、高速道路工事現場の視察などを行い、早期整備を願う声などを県内外に発信しています。

政策 1 安全対策の推進

【地域におけるボランティア団体の活動】

島根県内では、329の防犯ボランティア団体が結成され、安全で安心なまちづくりに向けた取組みが進められています。

特に、出雲市においては、40の団体により「出雲地区防災ボランティア連合会」が設立され、青パト（青色回転灯を装着した車両）による登下校時のパトロール、沿岸地区での週末深夜パトロール、青パトの導入研修会や青色防犯灯普及に向けた活動などを行っています。また、「出雲市総合ボランティアセンター運営委員会」では、災害時におけるボランティアマニュアルを出雲市社会福祉協議会などとともに作成し、被災者支援活動の普及に向けた活動を行っています。

政策 2 健康づくりと福祉の充実

【障害者の自立支援】

NPO法人「プロジェクトゆうあい」は、主に松江市内において、ユニバーサルデザイン啓発のためのビデオ作成、視覚障害者のための音声案内システム「てくてくラジオ」や「触覚ディスプレイ」の普及活動のほか、まちのバリアフリー情報の提供などを行っています。

【命を尊ぶ高齢者福祉】

NPO法人「なごみの里」は、知夫村において、多くのボランティアの協力を得ながら、地域の高齢者の送迎・買い物の代行等、様々な高齢者の支援や、精神障害者向けのミニデイサービスなどの福祉活動のほか、命の尊さを伝える啓発活動などを展開しています。

政策 3 医療の確保

【地域医療確保の取り組み】

隠岐病院においては、医師や看護職員が地域の座談会に出かけ病院の取組みについて説明し住民と意見交換を行っています。

また、邑智病院では、病院の今後のあり方を検討する委員会に郡内の住民代表を加えたり住民説明会を開催して情報の開示や意見の聴取を行っています。

【がん患者サロンの取り組み】

島根には、現在 16 カ所のがん患者サロンがあります。がん患者や家族の人たちが中心となり、患者同士の交流のほか、学習会を開催するなど、活動の範囲を広げています。

【地域を担う医師の確保】

島根大学では、将来の地域医療を担う医師を養成するため、地域枠推薦入学制度や地域医療実習など様々な取り組みを行っており、県としても奨学金制度などで支援をしています。

政策 4 子育て支援の充実

【思春期の子どもに関する専門相談事業】

日本助産師会島根県支部では、思春期の子どもやその保護者を対象として性に関する専門電話相談や、保育所や学校に出向き性の学習「誕生日ってなあに」を推進し、正しい知識の普及や、命の大切さについて啓発しています。また、子育て中の保護者の支援として 24 時間電話相談を行い子育て不安の軽減に役立っています。

【子育て子育て支援】

NPO法人「しまね子どもセンター」では、県内各地で、乳幼児の五感を育み、親子でリフレッシュできる野外遊びの企画や、遊び場サポーターの養成、子どもの発達段階に応じた芸術文化体験の企画提供を行うほか、子育て子育て支援のネットワークづくりなど、幅広い活動を展開しています。

政策 5 生活基盤の維持・確保

【一畑電車と沿線の活性化運動】

NPO法人「菜の花鉄道をつくる会」では、一畑電車沿線を菜の花で彩り、電車利用客の増加と地域の活性化につなげようと、沿線住民や一畑電鉄職員とともに、休耕田に種をまき、春の開花時期には、「菜の花鉄道まつり」を開催しています。

【移動が困難な方への輸送サービスの提供】

雲南市大東町には、福祉車両を所有するタクシー会社がないため、身体障害者や要介護者等が病院等へ通う際の移動が困難でした。NPO法人「ほっと大東」は、車いす対応車両等で、これらの人々に対して有償で病院の送り迎えなどを行っています。

このほか、松江市、浜田市、出雲市、安来市においても、NPO法人が同様の輸送サービスを行っています。

政策 1 教育の充実

【浜田市石見地区における子どもの成長支援】

浜田市立石見公民館では、地域で子どもを育む土壌をつくり、地域の教育力を向上させるため、放課後の子どもの居場所づくりを通じて、子どもを支援する大人たちのネットワークづくりの取組みを進めています。

また、ボランティアグループ「浜田のまちの縁側」は、この活動と連携しながら、高齢者、主婦、県立大学生など、多くの人々によって、子どもから高齢者まで、すべての人に開かれた居場所づくりを進めています。

【子ども読書の推進】

「桜江町読書普及協議会」では、家庭、学校、地域社会が連携協力し、各地区公民館を拠点に「子ども読書会」の活動を続けています。読み聞かせや地元の民話を素材にした紙芝居をはじめ、四季を通じた行事や高齢者との交流も行い、地域と子どもたちの結びつきを大切に活動をしています。

政策 2 多彩な県民活動の推進

【地域住民によるスポーツ振興】

「しんじ湖スポーツクラブ」は、自分たちの地域のスポーツ環境は自分たちで整えようと松江市宍道町で結成されたNPO法人です。地域の「子どもから高齢者まで誰もが気軽にスポーツを楽しめる場」、「健康づくりや生きがいづくり、仲間づくりの場」を提供することを目的に、スポーツ教室や健康教室、イベントや講習会の開催、チーム育成支援事業などの活動を行っています。

【県民参加のオリジナルミュージカル】

ミュージカル「あいと地球と競売人」は、地球環境保護を訴える漫画「地球の秘密」を描いた後、急逝された斐川町の小学6年生、坪田愛華さんの遺志をモチーフに、平成6年から上演が続けられている県民手づくりミュージカルです。初演以来、県内外で30回を超える公演を行い、全国に感動を与えています。

【地域発の国際演劇祭】

松江市を拠点に活動するNPO法人「あしぶえ」と地域住民が中心となって、世界の優れたアマチュア劇団を招く「八雲国際演劇祭」が、定期的に行われています。文化の違いと言葉の壁を越えて、演劇の楽しさと深さを味わいながら、感動し、新たな交流を育むことを目指すもので、「演劇による人づくり・まちづくり」に共感する多くのボランティアスタッフにより企画運営されています。

政策 3 人権の尊重と相互理解の推進

【企業等における人権啓発の取組み】

松江市、雲南地域（雲南市、奥出雲町、飯南町）、石西地域（益田市、吉賀町、津和野町）においては、企業や団体等が連携して人権・同和問題企業等連絡協議会を設置し人権啓発の様々な取組みを自主的に進めています。

これらの協議会では、企業のトップや職員を対象とした講演会・研修会の開催、人権意識向上のための資料の作成、人権標語の募集などの啓発事業、街頭における啓発資料の配付などの地域社会へのアピール活動などを展開しています。

【あすてらすフェスティバル】

毎年6月、男女共同参画推進月間にあわせて県立男女共同参画センター「あすてらす」で開催される「あすてらすフェスティバル」は、男女共同参画サポーター有志を中心に企画・運営されています。県内各地で様々な活動を展開している約80の個人・グループによる自主企画イベント等に県内各地から約2千人が参加し、互いに交流を深めています。

【在住外国人への支援】

ボランティアグループ「しまね多文化共生ネットワーク」は、在住外国人が病院で受診する際の言葉の不安を和らげるための医療通訳養成や、生活相談を受けるための24時間対応の緊急電話サービスを行っています。また、松江市のボランティアグループ「だんだん」など24の団体が、県内14市町で日本語教室を開催しており、県民との交流の場にもなっています。

政策 4 自然環境、文化・歴史の保全と活用

【森づくりと環境負荷の軽減に向けた実践活動】

「水と緑の森づくり事業」により森づくりや資源活用などの取組みが県内各地で展開されています。NPO法人「もりふれ倶楽部」は、森林ボランティアを養成し、間伐等の作業や、里山自然塾などの啓発活動を精力的に実践しています。また、「しまね企業参加の森づくり制度」による県内企業の森林保全活動も進められています。

女性を中心に結成された「環境とエネルギーを考える消費者の会」では、消費者の立場で無理なく実践できる省エネの実践方法を広めるなど、環境保全意識の啓発活動を展開しています。

【蓮華会舞の保存活動】

隠岐の島町の隠岐国分寺に伝わる蓮華会舞は、舞楽の流れをくむ芸能で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。奈良・平安時代に日本に伝えられた舞楽の多くは既に廃れていますが、この蓮華会舞は、いにしへの姿を今に伝える貴重な古典芸能です。平成19年の隠岐国分寺本堂焼失の際には面・衣装・楽器など全ての用具を失いましたが、「隠岐国分寺蓮華会舞保存会」を中心とした地元の熱意と努力により、わずか半年あまりで全ての用具を復元、保存・伝承活動を続けています。

【景観の保全活動】

「築地松景観保全対策推進協議会」では、出雲市、斐川町の151地区で住民協定を締結し、行政ともタイアップして築地松の剪定、伐採などの維持管理や町並み保全に取り組むとともに、職人の後継者育成、子供ついじまつ教室や観光客へのPRなど、幅広い景観活動を行っています。